

ーリウマチ膠原病診療連携の会ー

[2026年1月16日(金) 20:00~21:30]

【内容1】 20:00~20:10

会場：京都第一赤十字病院 5A会議室

『製薬メーカーからの薬剤情報提供』

【内容2】 20:15~20:45

『関節リウマチの周辺疾患②』

(ウイルス感染に伴う関節炎、特発性炎症性筋疾患、全身性硬化症)

京都第一赤十字病院 リウマチ内科 和田 誠



【内容3】 20:50~21:30

『症例検討会』

* 当日ご持参いただきました症例を優先的に検討させていただきますが、持込み症例がなければ当日のテーマに沿った模擬症例を用意させていただきます。

◆ ご連絡事項

- ・会場参加は医師のみに限定させていただきます、WEB参加は医師およびコメディカルを対象としております。
- ・WEB参加の方には、後日ZOOMのIDを送付いたします。
- ・会場参加の方にはお弁当をご用意しております。お車で来院される方には無料駐車券をお渡しいたします。
- ・相談症例をお持ちいただく場合は病歴・検査データ・画像データなどをご用意いただけますと幸いです。

◆ 今後の予定

・2026年2月20日

関節リウマチの周辺疾患③

(脊椎関節炎(感染性関節炎、強直性脊椎炎、IBD関連関節症、反応性関節炎など)、線維筋痛症)

[窓口担当]

京都第一赤十字病院

地域医療連携課

Tel.075-561-1121

Mail:renkei@kyoto1.jrc.or.jp

お申込みはこちらからお願いいたします

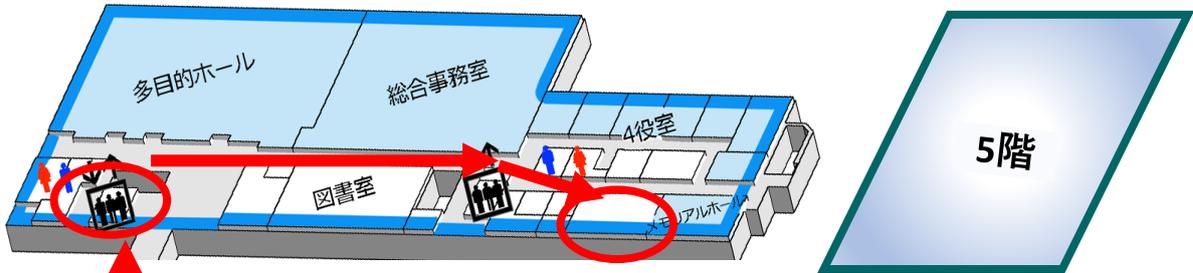


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

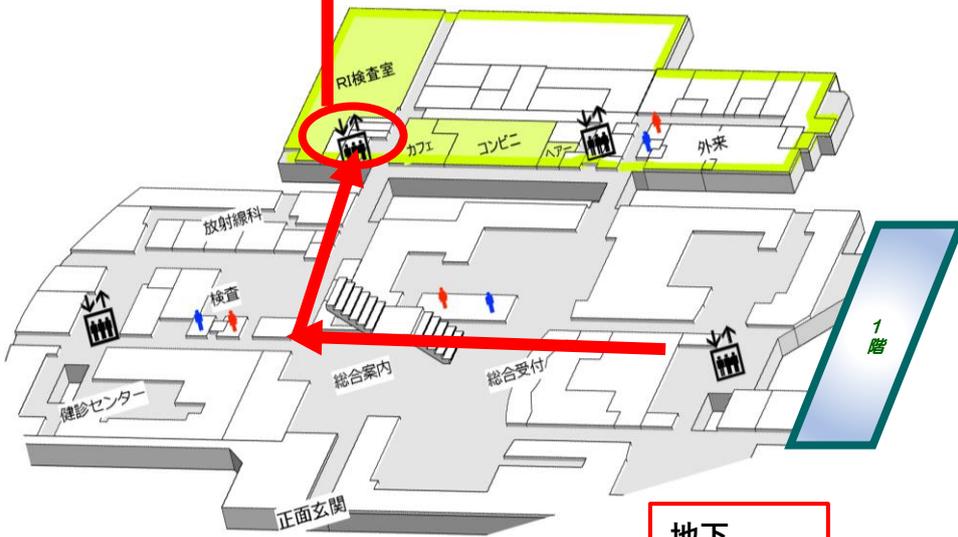
京都第一赤十字病院

いのちと、ぎゅっと。

京都第一赤十字病院 管理棟 5A会議室案内図



エレベーターで5階へお上がり
ください



※ 夜間は正面玄関が閉鎖しております。
救急入口横の南出入口（地下1階）
よりおはいりください。

地下
救急入口

ラインに沿ってお進みください。



第 14 回リウマチ膠原病診療連携の会 開催報告

12月12日（金）20時から当院5階会議室の現地参加とZoomによるWEBのハイブリッドで開催しました。今回も現地参加の5名の先生方とWEB参加の先生、看護師、薬剤師のみなさま、多くのご参加をいただきました。ありがとうございました。

今回は薬剤情報提供としてオレキシン受容体拮抗剤の不眠症治療薬である“デエビゴ”について情報提供をしていただきました。

その後の話題提供としては、『関節リウマチの周辺疾患①（リウマチ性多発筋痛症、RS3PE、ベーチェット病）』についてお話をさせていただきました。

リウマチ性多発筋痛症（PMR）は、高齢の患者さんに突然発症する肩・臀部の疼痛と発熱を主訴とする疾患で、高齢発症の関節リウマチとの鑑別が難しい疾患であること、巨細胞性動脈炎（旧：側頭動脈炎）その合併例が少なからず存在し、体幹部造影CTの撮影が必要となることなどがしばしばあることなどを紹介しました。

RS3PEは Remitting seronegative symmetrical synovial with pitting edema の略で、その名前のとおり、左右対称性に著明な陥没性浮腫を伴った関節炎を呈する疾患で、上記PMRと同様に高齢者に突然発症することが特徴です。発生率は関節リウマチの100分の1、PMRの3分の1ですが、日常臨床の中で十分遭遇する可能性のある疾患です。初期に屈筋腱鞘滑膜炎の発症が目されている関節リウマチとは対照的に手背側の伸筋腱鞘炎・腱周囲炎を伴った著明な浮腫が特徴的で一度症例写真を見れば忘れない疾患です。20%程度の症例で固形癌との合併が報告されていることに注意です。

ベーチェット病は痛みを伴う比較的深い口腔内アフタを繰り返し、陰部潰瘍や結節性紅斑を含めて特徴的な皮膚症状、関節炎、精巣上体炎などを引き起こすだけでなく、ぶどう膜炎で眼科にかかれる可能性もあるなど、複数の科に関わりのある疾患ですが、それぞれの臓器障害が異時的に出現するので、関連性に気づかず診断が年単位で遅れる傾向のある疾患です。診断がつけば重症化を防ぐことが可能な疾患であり注意が必要です。

後半では、頸部リンパ節腫脹と皮疹を繰り返している20歳代の女性の紹介患者さんについての報告・検討を行いました。ドライアイ・ドライマウス、繰り返す口内炎などに注目し、紹介元で抗核抗体1280倍（Speckled type）が判明。これらの情報を元に、全身性エリテマトーデス（SLE）、シェーグレン病（SjD）（*シェーグレン症候群から名称変更となりました）、抗リン脂質抗体陽性（APS）が判明しました。それぞれの疾患についてまだ分類基準を満たすレベルの臓器障害は起こっていませんが、早期にご紹介いただけましたので、平穏な日常生活、安全な妊娠・出産がサポート出来るように治療を進めていきます。検討内容としては、①Sicca症状の鑑別、②口内炎の鑑別、③抗核抗体検査の使い方とその解釈、そして、④無月経とSLE、シェーグレン病との関係、について文献的な情報を交えて説明させていただきました。

次回の第15回リウマチ膠原病診療連携の会は、2026年1月16日（金）20時からハイブリッドで開催予定です。話題提供としては、『関節リウマチの周辺疾患②（ウイルス感染に伴う関節炎、特発性炎症性筋疾患、全身性硬化症（全身性強皮症）』を扱い、症例検討として、①高齢関節リウマチ症例の治療難渋例、②血液検査所見がないにも変わらず疼痛の訴えの強い症例、について実際の症例を提示して検討をしたいと考えています。（第14回の症例報告では時間の関係でディスカッションより解説がメインになってしまいました。第15回の症例検討では実臨床で遭遇することの多い病態であり、参加者のみなさまの考え方などを積極的に聞きたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。）